

# 利神城跡の整備が始動

## 調査整備委員会が発足、専門の委員が支える

### ●史跡利神城跡調査整備委員会 委員

| 所属機関・職             | 氏名    | 専門分野 |
|--------------------|-------|------|
| 奈良文化財研究所<br>名誉研究員  | 小野健吉  | 史跡整備 |
| 金沢城調査研究所名誉所長       | 北垣聰一郎 | 石垣   |
| 関西大学名誉教授           | 西形達明  | 地盤工学 |
| 京都府立大学大学院教授        | 福井 亘  | 景 観  |
| 大阪工業大学特任教授         | 水島あかね | 建 築  |
| 兵庫県立歴史博物館<br>名誉館長  | 藪田 貫  | 文化遺産 |
| 兵庫県立考古博物館<br>名誉学芸員 | 山上雅弘  | 山城研究 |

### ●アドバイザー

|                      |      |       |
|----------------------|------|-------|
| 兵庫県立大学大学院教授          | 大藪崇司 | 植生・景観 |
| 京都精華大学マンガ学部<br>非常勤講師 | 堂野能伸 | 活 用   |

◆整備を支える調査整備委員会が発足  
佐用町は、令和8年4月、史跡利神城跡の整備を進めるための新たな体制として「史跡利神城跡調査整備委員会」を発足させました。

この委員会は、令和8年3月に刊行した「史跡利神城跡整備基本計画」を受け、これから始まる本格的な整備を、専門的な立場から支えていく役割を担います。町では委員会を組織するにあたって、7名の委員を委嘱しました。

委員には、整備基本計画策定でもお世話になった、歴史や考古学のほか、石垣や土木工学、景観や植生など、それぞれの分野に詳しい専門家が名を連ねています。

◆令和8年度は二の丸石垣の安定化を協議  
次に、令和8年度に委員会でも話し合う内容では、二の丸の崩落石垣の安定化が主要な議題となります。この対策は、これから始まる整備の中でも、特に急いで取り組むべき課題と位置づけられています。

その背景には、令和7年6月に起きた石垣の崩落があります。このとき、山城中心地区の二の丸東区で、南東部の石垣の出角部分が崩れ落ちました。崩落した石は東側の谷にまで達し、本丸から馬場へと向かう通路をもふさぎました。

利神城跡は、高い石垣を持つ山城であると同時に、麓の御殿屋敷を含む広がりのある史跡です。そのため、さまざまな分野の視点から議論できる構成としました。

さらに、委員に加えて、2名のアドバイザーも委嘱します。アドバイザーは、必要に応じて専門的な助言を行い委員会の議論を支えます。

こうして専門家が利神城跡の整備を見守り、支えていく体制が整いました。これにより利神城跡は、応急的な保護から本格的な整備へと、大きな一歩を踏み出すことになりました。

佐用町は、令和8年4月、史跡利神城跡の整備を進める新たな体制として「史跡利神城跡調査整備委員会」を発足させました。

3月に刊行した整備基本計画に基づき、いよいよ本格的な整備が始まります。委員会には専門家が委員として加わり、令和8年度は二の丸の崩落石垣の安定化などについて話し合う予定です。

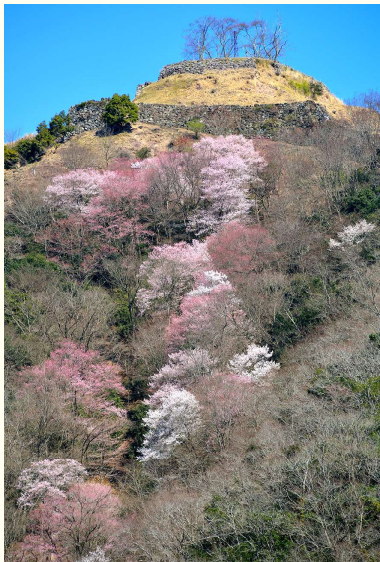
整備基本計画でも、この二の丸東区の石垣の保全対策は、第1期事業の重要な取り組みとして盛り込まれています。

そこで町では、委員会での協議を通して、これ以上崩れないための対策や、斜面の保全について、専門家の意見を聞きながら慎重に進めていく考えです。

利神城跡の石垣は、原則として解体修理を行わず、現状を保ちながら守っていく方針です。そのため、文化財としての価値を損なわないよう配慮しつつ、安全性も確保するとう、難しい取り組みが求められます。

町は、調査整備委員会とともに、貴重な史跡を未来へ確実に受け継いでいきたいと考えています。

～利神城のふうけい～



野村久雄氏撮影

※令和8年度から、かわら版は、基本的に二ヶ月に一回の発行とします



No.34

2026  
令和8年4月

国史跡  
利神城が  
わら版

Rikan Castle Kawaraban, No. 34

編集・発行

佐用町教育委員会教育課

〒679-5380

兵庫県佐用郡佐用町佐用 2611-1

☎ 0790 - 82 - 2424